

(平成28年度追加分)

災害の概要	公務災害防止対策の内容
職員室で床にある電源ケーブルの突起物(鉄製)に左足をぶつけて打撲した。(教員)	○床にある鉄製の突起について、改めて全職員に注意喚起した。 ○突起物にテープを貼り、滑らかにして段差をなくした。
脚立に登って木の枝を剪定していたところ、バランスを崩して転倒し、右手を骨折した。(教員)	○高所での作業、危険を伴う作業する際は、必ず複数人で行い、脚立を固定するよう指導した。
体育祭の救護活動中に担架を準備していたところ、金具で右手親指を挟み、負傷した。(養護教諭)	○日頃使用していない予備担架を含めて、定期的に留め金具等の点検・整備を行うこととした。 ○担架を使用する可能性がある行事の前には必ず、予備を含め動作確認を行うこととした。
トイレが詰まって水浸しになっていたため、掃除をしていたところ、右足を滑らせ身体のバランスを崩して転倒し負傷した。(教員)	○トイレマットを設置した。 ○清掃後は特に滑り易いので、トイレの壁に注意喚起する目立つ表示を設置した。 ○教職員に対して、滑りにくい履物を履くように指示した。
黒板前に2つ設置された教壇に上がり、授業を行っていたところ、高さが異なっていたため境界の段差に躓き、バランスを崩し転倒し負傷した。(教員)	○災害発生後すぐに、同じ高さの教壇に入れ替え、段差をなくした。
結露で滑り易くなった廊下で左足を滑らせて捻り負傷した。(教員)	○清掃時間に乾拭きを呼びかけ、湿気を拭き取るようにした。 ○雨の日や湿度の高い日は、休み時間等に「廊下を走らない」「廊下が濡れていて滑り易いので注意すること」と、校内放送で呼びかけをするようにした。 ○廊下に注意喚起するポスターを掲示した。
分場内の茶園で作業後、乗っていた摘採機がバランスを崩し転倒した際に、コンクリートの道路上に飛び降りたところ、右肩から落下し負傷した。(労務職員)	○所属全員に分場内全体を対象に、労働安全上危険な場所の洗い出しをした。 ○危険箇所・通路に遮断物(鉄パイプを打ち付け、赤く目立つコーン)を設置し、摘採機を含むすべての農業用車両の出入り物理的に不可能となるようにした。
防疫業務で乳用牛の採血等を行っていたところ、採血していた牛から蹴られ負傷した。(技師)	○検査頭数に応じた出張人員を確保する。 ○飼養農場の状況を十分把握し、対象牛の保定・採血手順を打ち合わせしたのち、作業を開始する。 ○対象牛の確保(補助)者を複数名配置し、牛の制御ができてから一頭ずつ作業を実施する。 ○採血者など牛に接近する作業者は、プロテクターの装着が必要とした。
施設の行事で使用したU字ブロックに躓き、前方に転倒し、左手をついた際に負傷した。(支援員)	○通路で歩行の妨げになるような機材等は、当日に全て片付ける。 ○通路に照明がないので、人感センサー付き照明を4台設置した。
建物火災に出動し、消防活動のためホース延長作業等を行っていたところ、体調が悪化し熱中症等を発症した。(消防職員)	○各職員の体調管理の徹底及び体調不良時の早めの報告の徹底。 ○出勤時における現場到着までの水分補給及び塩分補給を積極的に行う。 ○現場活動時は、活動隊員のローテーションを可能な限り実施し、休息を与える。 ○職務遂行のための体力維持を図るため、最低限の体力錬成を実施する。 ○防災衣の中に入れる保冷剤を準備し易くするために、車庫内に冷蔵庫を移設した。